

美しい星へのいざない 「Invitation to Cool Earth 50」

【問題提起】

- 京都議定書を超えて、世界全体が参加する排出削減のための新たな枠組み作りが必要。
- 新たな枠組み作りという試みに対して次の3つの懸念が表明されているが、いずれの懸念も克服可能。
 - (第1に) 排出削減に取り組むと、経済成長が阻害されるのではないか？
 - (第2に) 自国が取組んでも他国が取組まなければ、問題解決にならないのではないか？
 - (第3に) 途上国に対策を求めるのは不公平ではないか？
- 我が国は深刻な公害や石油危機を乗り越え、GDPを2倍とする中で石油消費を8%減少。
問題解決の鍵は、優れた技術、環境と調和した社会の仕組みや伝統、私達の意志。

【提案の全体像】

- 本日、皆様を2050年の美しい星、地球に招待したい。
- このため、次の3つの柱からなる「美しい星50 (Cool Earth 50)」というパッケージを提案

【提案①：世界全体の排出量削減のための長期戦略の提唱】

- 「世界全体の排出量を現状から2050年までに半減」という長期目標を世界共通目標として提案。
- その達成のため、「革新的技術の開発」と「低炭素社会づくり」という長期ビジョンを提示

【提案②：2013年以降の国際枠組み構築に向けた「3原則」の提唱】

- 2013年以降の温暖化対策の具体的枠組みを設計するための「3原則」を世界に提案。
 - (第1) 主要排出国が全て参加し、京都議定書を超え、世界全体での排出削減につながること
 - (第2) 各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること。
 - (第3) 省エネなどの技術を活かし、環境保全と経済発展とを両立すること。
- 我が国として志の高い途上国の支援のために新たな「資金メカニズム」を国際協調で構築
- エネルギー効率の向上の取組を世界に拡大。原子力利用拡大の国際取り組みや基盤整備の支援
- 公害対策と温暖化対策の一体的取組、排出量取引、経済的インセンティブなどの手法を検討。

【提案③：京都議定書の目標達成に向けた国民運動の展開】

- 京都議定書の6%削減目標達成に向けて、京都議定書目標達成計画を見直す。
- 政府の率先的取組を進め、自治体や主要な業務部門の行動の加速化を促す。
- 「国民運動」を展開し「1人1日1kg」削減のモットーの下で様々な努力や工夫を呼びかけ。
また、国民運動の展開について、新しい提案を公募し、採用する。

【結び】

- 「美しい国」という私の考えは、地球環境との調和を図りつつ人類が発展を続けるため、文明のあり方を転換すべきではないかとの問題提起でもある。「美しい星」の実現に向け、手を携えて、共に取り組もうではありませんか。

革新的技術開発

平成19年5月

CO₂の大幅削減に向けた革新的技術の例

1. 革新的ゼロ・エミッション石炭火力発電

石炭ガス化発電の高効率化とCO₂の回収・貯留(CCS)を組み合わせることにより、世界の排出量の3割を占める石炭火力発電からの排出をゼロに。

2. 先進的な原子力発電

次世代軽水炉、中小型炉、高温ガス炉、高速増殖炉(FBR)の開発・実用化により、ゼロ・エミッションの原子力発電を大幅に拡大。

3. 高効率で低コストな革新的太陽光利用技術

太陽光発電の変換効率を飛躍的に向上させ、火力発電並の経済性を実現するとともに、蓄電池を大容量化、低コスト化。

4. 水素をエネルギー源として利用するための革新的技術

燃料電池の低コスト化と高効率化により、燃料電池車が大幅に普及。これにより、世界の排出量の2割を占める自動車からの排出をゼロに。

5. 超高効率な省エネルギー技術

コースの一部代替に水素を還元材として用いた製鉄技術により、製鉄プロセスからの排出を大幅削減する等、生産プロセス・機器等の超高効率化により大幅な省エネ・低炭素化を実現。